

大腸がん検診について

日本人の死因の1位はがんで、がんの中で大腸がんの死亡は男性が第3位、女性では第1位です。日本人のうち2人に1人はがんにかかります。がんを早期発見、早期治療すれば、治癒できる可能性が高まります。

大腸がんは早期には自覚症状がなく、進行してくると、便が細くなる、便秘や下痢になる、腹痛が出現する、血便が出るなどの症状が現れます。症状があれば医療機関に受診していただくのはもちろんですが、大腸がんをより早期に見つけるために、症状のないうちから大腸がん検診を受けましょう。

大腸がんの検診は便に血液が混じっているかどうかを検査します。これを便潜血検査といい、大腸からの微量の出血でも検出することができます。便潜血が陽性の時は、大腸がんや大腸ポリープ、大腸炎から出血していることがあります。その他、痔があることもあります。陽性になった方は大腸がんがないかどうか、医療機関に受診して、大腸内視鏡検査を受けましょう。自分は健康だから大丈夫、便潜血が陽性でも痔だから大丈夫と思って受診しないと、がんを発見する機会を失ってしまいます。また、40歳を超えると大腸がんのリスクが増大していくため、便潜血検査の結果が陰性でも、40歳以上の方は1回は大腸内視鏡検査を受けてみるとよいと思います。大腸内視鏡検査は以前に比べ楽になってきています。安心して受けに来てください。

津山中央病院 馬場 雄己



お問い合わせ：津山市健康増進課
TEL：0868-32-2069

